

分 かる と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

おきなわ こんぶ しょうひ
沖縄で昆布の消費が

多い理由とは?

(2017年11月実施 大学入学共通テスト試行調査 日本史B)



田中さんは、西日本ではうどんなどのだしに昆布が多く使われていること、昆布がとれない地域の消費量が多いことをテレビ番組で知りました。田中さんは昆布について調べた情報を以下のようにまとめました。

- 昆布は主に北海道でとれる海産物である。
- 昆布の年間購入金額が高い都市には、富山市・鹿児島市・神戸市・北九州市・大阪市のほか、那覇市がある。
- 中国では、高級食材や薬として昆布が消費された。

田中さんは江戸時代のものの流れについて、次のa~dの事項をまとめました。那覇市の昆布消費量が多いことの歴史的背景として正しいものを選びなさい。

- a 江戸時代には北前船など日本海側の海上交通が整備され、えぞ地と大阪との間のものの行き来が盛んになった。
- b 江戸時代には、各藩で特産品が開発され、将軍への貢ぎ物とされた。
- c 江戸時代には、島津氏が琉球を支配し、中国への使節の派遣と貿易を続けさせた。
- d 江戸時代には、出島を通じてオランダとの交流が行われた。

知識がある、だけでは×

今回は、2021年1月から始まる「大学入学共通テスト」の内容を検討するために行われた試行調査の問題を取り上げます。2月に別の問題を紹介した時にも伝えましたが、もう一度、「大学入学共通テスト」について説明しておきます。

現在の大学入試センター試験が21年1月から「大学入学共通テスト」に変わります。数学と国語で記述式の問題が出ること(センター試験は全教科マークシート式でした)や、英語で「読む」「聞く」だけでなく「話す」「書く」力も問うようになることなどが、大きな変更点として取り上げられています。日本史などの歴史科目に



イラスト・瑞木匠

江戸時代のものの流れを考える

についても、知識を問うだけでなく知識を活用して考察する力を問う問題に変更される予定です。

今回の問題のa~dの文は、いずれも歴史的には正しい内容です。したがって、ただ知識があるだけでは正答を導くことができません。設問にしたがって、「那覇市の昆布消費量が多いこと」の背景として正しいものを選んでいきましょう。

昆布ロード

田中さんの調べた内容を見ると、那覇市のほかにも、日本海側の富山市、西日本の北九州市・神戸市・大阪市などで昆布が多く消費されていることがわかります。これには、えぞ地(現在の北海道)から日本海・下関・瀬戸内海を通過して大阪にいたる西廻り航路を通った北前船を使って、えぞ地特有の産物である昆布が運ばれたことが影響しています(a)。太平洋を通る東廻り航路もあったのですが、黒潮の流れに逆らう必要がある東廻り航路での航海は当時の船では難しく、次第に西廻り航路の北前船が、日本の海運の主流になりました。北前船で昆布が伝わった西日本を中心に昆布だしの文化が広まり、昆布が伝わるのが遅かった東日本ではあまり広まらなかったとされています。

では、北前船のルートからは大きくはずれる鹿児島市・那覇市で、昆布の消費が盛んなのはなぜなのでしょう。その鍵は、田中さんが調べた内容の三つ目のポイントにあります。

当時、中国ではやった病には昆布が効くとさ

れましたが、中国近海では昆布がとれず、中国では昆布は高級食材として扱われました。それにいち早く目を付けたのは薩摩藩(現在の鹿児島県)です。当時中国との貿易は江戸幕府が管理していましたが、薩摩藩が管理していた琉球(現在の沖縄県)は幕府とは別に中国との貿易を行っていました(c)。そこで、薩摩藩は琉球を介して昆布を中国に売り、利益を得るようになりました。

しかし、えぞ地や大阪から遠く離れる薩摩藩が昆布を手に入れるのは容易なことではありません。そこで現れた助っ人が、富山の薬売りでした。彼らは、北前船から仕入れた昆布を薩摩藩に渡す代わりに、薩摩藩から中国の高価な薬の原料を入手することをねらったのです。薩摩藩は貿易の利益で財政を立て直し、やがて明治維新の中心的存在として活躍することになります。

(Z会・河原井彩)

今回の教訓

北海道から大阪、そして鹿児島、沖縄、中国へと「昆布ロード」が延びたことで、昆布を食べる文化が広まりました。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は中学生・高校生向けの社会科教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。